

水のパレード

今、私の手元に一枚の写真があります。近所の敬老会で披露された、五十年前の写真です。今では見なくなつたボンネットバスを従えて、おかつぱ頭や坊主頭の小学生達が、体操服で意気揚々と行進しています。これは、私の住む地区から、十kmほど離れた市内へ向けて行われた、「水のパレード」の様子です。近所のおじいちゃんおばあちゃん達が、この時の様子を教えてくれました。歩き疲れて、交代で後ろのバスに乗ったとか、私のおじいちゃんが一番前を歩いていたりとか。何より、山の上の水を市内に届けることに誇らしさを感じていたそうです。

私の住む地区は、春日原生林の更に東にある、北村町と言う山奥です。元々は、東里村と呼ばれていて、奈良市ではなかったそうです。それまで奈良市内では、お隣の京都府に

奈良県立青翔中学校 三年

小林 大悟

ある木津川から引いた水を飲んでいました。戦後、市内の人口が増加し、水源を私たちが今住んでいる地区を流れる「白砂川」「布目川」に求めることを決定したのです。そのため、東里村は奈良市に合併され、「白砂川」、「布目川」も、奈良市内に併合されました。そして、昭和四十年、須川ダム建設が開始され、その四年後、昭和四十四年にダムは完成しました。水のパレードは、それを記念して、いち早くきれいなお水を届けましょう、ということで行われました。昭和三十四年頃から、昭和四十年まで、北村町付近、東里地区の小学生だけでなく、奈良市内の小学生も参加して、行って来たそうです。二kmずつをひとりひとり交代しながら歩いて、「布目川の水を市内へ届けよう」と書かれた横断幕まで揚げていたそうです。

白砂川は、所々に砂の河原のある、優しい流れの川です。決して木津川のような大きな川ではありません。そこにダムが作られませんでした。須川ダムです。いくつかの家が、今もダムの底に残されているそうです。工事も進みやがて奈良市内に東部の水が届きました。昭和五十年くらいのことだそうです。

しかし困ったことに、肝心の我々の地域はそれから長い間、水道の水を使えませんでした。今もあちこちにありますが、井戸水を使って生活していたのです。その井戸が取水工事の後、数多く枯渴したそうです。地下で何があったのかはわかりませんが、とりあえず簡易水道で村落を賄うことにしました。祖母などはこの水を不安がって、さらに浄水器を通して使っていました。簡易水道は、雨が降りすぎると濁ったり、カルキを交代で投入したりと、管理に苦労したようで、父は曾祖父と一緒に見に行った記憶があるそうです。この後、平成四年には布目ダムも完成し、奈良市内の水の供給は安定しましたが、私の住む地域は最後の最後、平成十四年にやっと浄水場の水が届きました。今では町の皆さん

と同じ水道水です。今私の家の前を流れる水がまわりまわって水道から出てきます。水のパレードが帰って来た思いです。思えば長い旅です。コストもかかっていきます。大切に使わなければなりません。畑や庭の木々に使う分は、雨水や川の水も利用し、日常生活での節水に心掛けていきます。そして村のおじいちゃん達と同じように、この水源をいつまでも誇りに思つて、大事に守つていきたいです。普通に蛇口をひねれば安全な水が出てくることに感謝しながら。